

令和5年度感染症対応力向上事業 訪問支援

施設名：クレアール楽生苑
施設名：尾道市立市民病院

施設長氏名：岡野 宏哉
ICN氏名：内海 友美

<取り組み前>

<取り組み後>

施設

全4ユニットで構成、1ユニット40床の型特別養護老人ホームです。少人数制ケアを実現することで、家庭的で安心感のある生活環境を提供しています。利用者一人ひとりの生活スタイルを尊重し、個別ケアを重視した支援を行っています。

施設とスタッフの写真



感染症対応力向上事業 参加の動機

新型コロナウイルスが感染症法上5類に変更され、これまでの対応を見直す必要性を感じていました。当施設では感染症対策を徹底してきましたが、現行の対応が十分であるかを客観的に評価し、改善点を明確にしたいとの思いから、本事業への参加を決定しました。

実施日	1回目	令和5年11月22日(水)	13:30~15:00
	2回目	令和5年12月25日(月)	10:30~11:30 (Web開催)

ラウンドから見えた課題

ラウンドを通じて、感染対策の観点から水回りの環境整備に課題があることが明らかになりました。具体的には、ペーパータオルや手袋、観葉植物が水回りに設置されており、水の飛散による付着リスクが指摘されました。このご指摘を受け、直ちに配置の見直しと適切な管理を実施し、感染リスクの低減に向けた環境改善が必要と感じました。

取り組み内容

- ①水回りの環境整備。
- ②採血針などの鋭利物の適正な廃棄
- ③感染対策マニュアルの見直し

取り組み成果

- ①観葉植物や必要のない物を撤去し掃除しやすく清潔を保持できる環境に整備。壁にフックを取り付け、手袋やペーパータオルを平置きから壁掛けに変更し水の飛散が及ばない位置に配置。
- ②専用の針捨て容器を導入
- ③汚物処理室の汚水槽を含め施設内清掃についてルール化、「手指衛生が必要な5つのタイミング」をマニュアルに追記。

施設：参加しての感想

専門的な知識に基づくアドバイスで、感染症対策を見直す良い機会となり日々のケアの質を高める活動ができた。ラウンドでは気づきにくい課題が明らかになった。水回りの環境整備や針捨て容器の導入で、スタッフの安全かつ効率的に作業できる環境整備ができた。また、講義は最新の知識と実践的な内容で、職員の感染予防意識が大いに向上しました。専門的な知識を取り入れた改善活動は、ケアの質に直結し利用者が安心して過ごせる環境づくりがさらに進むと感じており、今後も定期的に見直しを行い、施設の安全性を強化していきたいと考えています。

ICN：講師としての感想

意見交換の場では、各々の気づきや今後の取り組みについて積極的かつ前向きな話し合いがなされ、出席者の実直さや熱意、良くしたい（改善したい）思いを強く感じた。施設内ラウンドで手洗いシンク周囲について助言したところ、直ちに整理整頓などの改善活動がなされ行動力の速さ・職員皆で協力する姿勢に感銘を受けた。またこれまでのCOVID-19対応から、過剰な対策になっていないか・必要だけども後回しにしている対策はないか等を振り返ることに繋がった。

本事業での取り組みが、今後の改善活動において継続されることを期待する。

写真

写真

